

令和7年度水道事業会計当初予算(案)について

補足資料

八戸圏域水道企業団

3. 予算の概要「前年度決算見込み比較」 増減の主な理由について

(金額：消費税込み)

収益的収支：水道水を作り届けるための収支

1 上水道事業収益

1 営業収益

1. 給水収益は、有収水量の減少により、減少する見込みです。
2. 受託工事収益は、洋野町との共同施設設備の更新工事の増加により、負担金収入が増加する見込みです。
3. その他営業収益は、道路改良工事等に伴う水道管移設工事の負担金が減少する見込みです。

2 営業外収益

1. 受取利息は、金利の上昇により、増加する見込みです。
4. 長期前受金戻入は、令和 6 年度の交付金の減少などにより、長期前受金が減少するため戻入額が減少する見込みです。
6. 雑収益は、世増ダムの売電交付金が売電単価の変更により、減となる見込みです。

2 上水道事業費

1 営業費用

1. 原水及び浄水費は、電力料金や薬品単価の上昇に伴い、動力費や薬品費が増となる見込みです。
2. 配水及び給水費は、各施設整備工事の発注件数増加や 5 年に 1 度実施する配水管網機能評価分析業務委託などが増となる見込みです。
3. 漏水対策費は、漏水調査業務等の委託料が増となる見込みです。
4. 量水器費は、量水器検定満期取替件数の増加により工事請負費が増となる見込みです。
5. 受託工事費は、洋野町との共同施設設備更新工事の増によるものです。
6. 業務費は、労務費の上昇に伴い、検針等業務委託料が増となる見込みです。
7. 総係費は、退職給付費（引当金計上額）が減となる見込みです。
10. 減価償却費は、償却資産の増加により、増となる見込みです。

2 営業外費用

3. 雑支出は、令和 6 年度に支出した災害派遣費用分が減となる見込みです。

資本的収支：施設を建設・更新するための収支

(金額：消費税込み)

1 上水道資本的収入

1. 企業債は、ひばり野配水池・配水塔築造工事に係る借入金が増額となる見込みです。
2. 工事負担金及び寄付金は、道路改良工事に伴う水道管布設工事の増により負担金が増額となる見込みです。
3. 国庫補助金は、交付金対象事業費の増により、増額となる見込みです。
4. 水道加入金は、前年度並みとなる見込みです。

2 上水道資本的支出

1 建設改良費

2. 施設費は、令和 6 年度決算見込みと比べ、工事費が増額となる見込みです。

増減の主なもの

施設整備費 +5,945 万 6 千円

(継続) 新ひばり野配水塔・配水池築造工事 4 億 9,109 万 5 千円計上

(R6: 3 億 3,521 万 4 千円 +1 億 5,588 万 1 千円)

馬淵配水塔内面防食工事 1 億 3,838 万円計上

南高台配水場送水ポンプ・ポンプ盤更新工事 (R6 予算計上) △2 億 2,671 万円など

管工事 +2 億 452 万 1 千円

八太郎大橋添架管更生工事 5 億 2,459 万円計上

(R6: 1 億 1,000 万円 + 4 億 1,459 万円)

新大橋整備事業に伴う配水管布設(添架)工事 (R6 年度完成)

△3 億 5,779 万 3 千円

道路改良工事に伴う配水管改良工事 1 億 8,849 万 6 千円計上

(R6: 1,051 万 3 千円 +1 億 7,798 万 3 千円) など

その他

財務会計システム更新業務委託 9,350 万円計上

料金オンラインシステム再構築業務委託 8,470 万円計上

資本的収支財源内訳

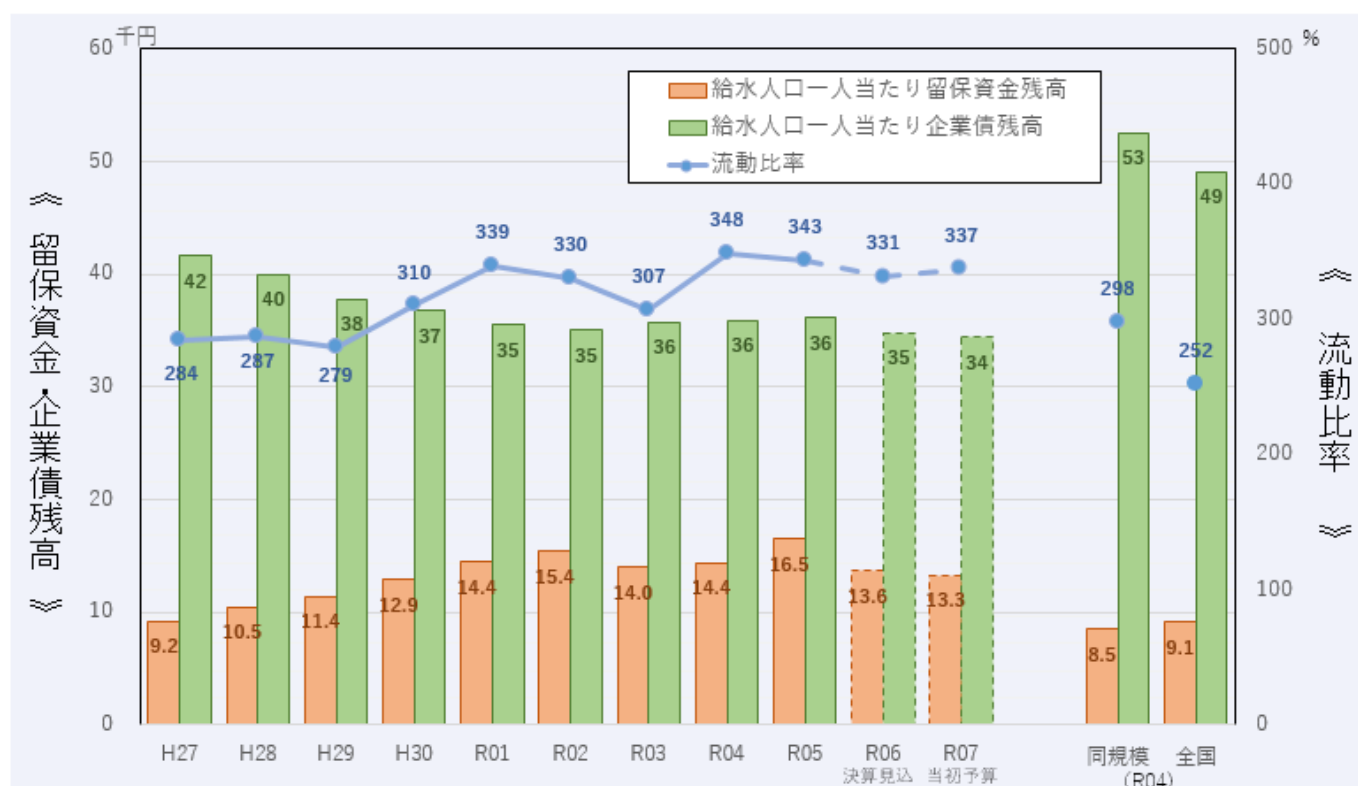
(消費税込み)

(単位：千円)

項 目	予算額	資本的支出の財源内訳							
		資本的収入				補てん財源使用			
		企業債	国庫補助金	工事負担金	水道加入金	消費税調整額	損益勘定留保資金	積立金(利益)	
上水道資本的支出	4,421,411	600,000	56,694	301,570	164,325	273,569	2,592,015	433,238	
建設改良費	3,627,153	600,000	56,694	301,570	164,325	273,569	1,997,757	233,238	
事務費	119,566	0	0	20,300	0	356	98,910	0	
職員給与費	115,507	0	0	20,300	0	0	95,207	0	
事務費(その他)	4,059	0	0	0	0	356	3,703	0	
施設費	3,405,276	600,000	56,694	281,270	164,325	263,910	1,805,839	233,238	
管路整備事業	2,284,704	200,000	56,694	281,270	108,461	187,024	1,301,322	149,933	
①重要給水施設配水管(八戸赤十字病院ルート)	103,851	50,000	27,764	0	2,315	6,707	14,439	2,626	
②水道管路緊急改善(奥入瀬配水池～木内々ポンプ場)	181,500	50,000	28,930	0	9,103	13,042	68,049	12,376	
③八太郎大橋添架管更生工事	524,590	0	0	0	0	47,690	476,900	0	
④区画整理・道路改良に伴う布設	331,623	0	0	248,105	7,412	6,919	58,540	10,647	
⑤その他配水管更新・布設	1,109,975	100,000	0	0	89,631	112,666	683,394	124,284	
⑥消火栓設置工事	33,165	0	0	33,165	0	0	0	0	
施設整備事業	1,025,452	400,000	0	0	47,422	69,005	437,845	71,180	
①新ひばり野配水塔・配水池築造工事	491,095	400,000	0	0	0	44,645	46,450	0	
②その他施設整備	534,357	0	0	0	47,422	24,360	391,395	71,180	
調査費	95,120	0	0	0	8,442	7,881	66,672	12,125	
その他施設費(器具備品購入費)	56,401	0	0	0	0	5,129	51,272	0	
リース債務支払額	45,910	0	0	0	0	4,174	41,736	0	
企業債償還金	794,258	0	0	0	0	0	594,258	200,000	
合 計	4,421,411		1,122,589				3,298,822		

参考

留保資金の状況



同規模：給水人口15万人以上30万人未満 ・ 末端水道事業計(企業年鑑より)

流動比率 = 流動資産 / 流動負債 × 100 < 短期的資金の状況 >

留保資金残高 = (投資 + 流動資産) - (流動負債 + 固定負債引当金 + 積立金)

企業債残高 = 固定負債・建設改良に係る企業債 + 流動負債・建設改良に係る企業債

6. 財政計画比較

⑤指標比較【KPI】

(1) 有効率

指標の解説	水道施設を通して給水された水量が、どの程度有効に使用されているかを示すもので、経営の効率性を表す指標					
算出式	$(\text{年間有効水量} \div \text{年間配水量}) \times 100$					
R7年度値	目標値	93.5%	予算値	91.7%	増減	-1.8%
評価・分析	年間配水量のうち、有効水量は減少し、無効水量は横ばいとなるため、予算値は目標値を下回った。					

(2) 有収率

指標の解説	年間配水量に対する年間有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して給水された水量が、どの程度収益につながっているかを表す指標					
算出式	$(\text{年間有収水量} \div \text{年間配水量}) \times 100$					
R7年度値	目標値	91.1%	予算値	89.4%	増減	-1.7%
評価・分析	年間配水量のうち、有収水量は減少し、有効無収水量及び無効水量は横ばいとなるため、予算値は目標値を下回った。					

(3) 管路の更新率

指標の解説	管路総延長に対する当該年度に更新した管路延長の割合を示すもので、管路の更新ペースが把握できる。数値が2%の場合すべての管路を更新するのに50年かかることになる。					
算出式	$(\text{当該年度に更新した管路延長} \div \text{管路総延長}) \times 100$					
R7年度値	目標値	0.27%	予算値	0.30%	増減	0.03%
評価・分析	指標値は、馬淵川系導水管更新工事や蟹沢配水幹線布設替工事の完成に伴い、令和5年度に目標値を上回ったが、長期的に低下傾向にある。予算値は目標値と同程度となった。					

(4) 浄水施設の耐震化率

指標の解説	全浄水施設能力に対する耐震対策が施されている浄水施設能力の割合を示すもので、地震災害に対する浄水処理機能の信頼性・安全性を表す指標					
算出式	$(\text{耐震対策の施された浄水施設能力} \div \text{全浄水施設能力}) \times 100$					
R7年度値	目標値	42.1%	予算値	42.1%	増減	0.0%
評価・分析	実施事業なし。					

(5) ポンプ所の耐震化率

指標の解説	耐震化対象ポンプ所能力に対する耐震対策が施されたポンプ所能力の割合を示すもので、地震災害に対するポンプ施設の信頼性・安全性を表す指標					
算出式	$(\text{耐震対策の施されたポンプ所能力} \div \text{耐震化対象ポンプ所能力}) \times 100$					
R7年度値	目標値	94.2%	予算値	94.3%	増減	0.1%
評価・分析	指標値は、米沢ポンプ場の稼働により、令和5年度に目標値をやや上回った。予算値は同規模平均と比較して高い値となっている。					

(6) 配水池の耐震化率

指標の解説	全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池の容量の割合を示すもので、地震災害に対する配水池の信頼性・安全性を表す指標					
算出式	$(\text{耐震対策の施された配水池有効容量} \div \text{配水池等有効容量}) \times 100$					
R7年度値	目標値	49.0%	予算値	49.9%	増減	0.9%
評価・分析	指標値は、梅内配水池（有効容量400m ³ ）の運用開始により、令和5年度に目標値を上回ったが、予算値は同規模平均と比較して低い値となっている。					

(7) 管路の耐震管率

指標の解説	全ての管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する水道管路網の安全性、信頼性を表す指標					
算出式	$(\text{耐震管延長} \div \text{管路延長}) \times 100$					
R7年度値	目標値	46.9%	予算値	46.4%	増減	-0.5%
評価・分析	指標値は、同規模平均と比較して高い値となっており、年々上昇しているが、予算値は目標値をやや下回った。					

(8) 基幹管路の耐震管率

指標の解説	基幹管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する基幹管路の安全性、信頼性を表す指標					
算出式	$(\text{基幹管路のうち耐震管延長} \div \text{基幹管路延長}) \times 100$					
R7年度値	目標値	72.8%	予算値	73.6%	増減	0.8%
評価・分析	指標値は、同規模平均と比較して高い値となっており、年々上昇している。奥入瀬配水池から木内々ポンプ場までの配水管（679m）の更新などにより、予算値は目標値を上回った。					

(9) 重要給水施設配水管路の耐震管率

指標の解説	重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震管延長の割合を示すもので、大規模な地震災害に対する重要給水施設配水管路の安全性、信頼性を表す指標					
算出式	$(\text{重要給水施設配水管路のうち耐震管延長} \div \text{重要給水施設配水管路延長}) \times 100$					
R7年度値	目標値	56.7%	予算値	56.8%	増減	0.1%
評価・分析	三戸中央病院、八戸赤十字病院等への配水管（607m）の更新により、予算値は目標値をやや上回った。					

6. 財政計画比較

⑤指標比較【経営指標】

(1) 職員一人当たり有収水量

指標の解説	水道サービスの生産性・効率性を評価する指標で、有収水量の規模に照らして、人員数が適切であることを示す指標。					
算出式	年間総有収水量÷損益勘定職員数					
R7年度値	予測値	182,455m ³ /人	予算値	176,181m ³ /人	増減	-6,274m ³ /人
評価・分析	年間総有収水量は減少し、損益勘定職員数は増加するため、予算値は予測値を下回った。指標値は、同規模平均と比較しても低い値となっており、労働生産性が低いことを示している。					

(2) 企業債償還元金対減価償却費比率

指標の解説	投下資本の回収と再投資との間のバランスを見る指標。一般的にこの指標が100%を超えると、再投資を行うための資金を企業債等の外部資金に頼らざるを得なくなる。					
算出式	建設改良のための企業債償還元金÷（減価償却費－長期前受金戻入）×100					
R7年度値	予測値	31.60%	予算値	31.37%	増減	-0.23%
評価・分析	指標値は、同規模平均と比較して低い値となっており、長期的に低下傾向にある。企業債償還元金の減少により、予算値は予測値を下回った。					

(3) 有形固定資産減価償却率

指標の解説	有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表した指標で、資産の老朽化度合を示す指標。					
算出式	有形固定資産減価償却累計額÷償却対象資産の帳簿原価×100					
R7年度値	予測値	54.01%	予算値	54.32%	増減	0.31%
評価・分析	指標値は、馬淵川系導水管更新工事の完成などにより、令和5年度に低下したが、長期的に上昇傾向にあり、予算値は予測値を上回った。 施設の老朽度合は進行するが、資産の長寿命化を図りながら、最大限有効活用する資産管理が必要である。					

(4) 有収水量1m³当たり資産合計

指標の解説	どの程度効率よく施設を使用して給水を行っているかを表す指標。資産の規模は団体により異なるが、遊休資産や未稼働資産が多い場合は、数値が高くなる傾向にある。					
算出式	資産合計÷年間総有収水量					
R7年度値	予測値	3,434円/m ³	予算値	3500円/m ³	増減	66円/m ³
評価・分析	計画と比較して資産合計は増加し、年間総有収水量は減少するため、予算値は予測値を上回った。指標値は、同規模平均と比較しても高い値となっており、資産の効率性が悪いことを示している。					

(5) 施設利用率

指標の解説	一日給水能力に対する一日平均配水量の割合を示すもので、施設の利用状況（効率性）や適正規模を判断する指標。一般的に高い数値であることが望ましい。					
算出式	一日平均配水量 ÷ 一日配水能力 × 100					
R7年度値	予測値	55.16%	予算値	55.70%	増減	0.54%
評価・分析	予算値は予測値を上回ったが、一日平均配水量の減少により、指標値は、同規模平均と比較しても低い値となっており、施設利用の効率性は悪化している。適正規模での施設更新計画が必要である。					

(6) 経常収支比率

指標の解説	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかという、収益性を示す。この指標は単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要。					
算出式	経常収益 ÷ 経常費用 × 100					
R7年度値	予測値	104.51%	予算値	103.82%	増減	-0.69%
評価・分析	これまで収支の黒字を示す100%以上を確保しているが、予算値は予測値を下回った。より一層の経費削減が必要である。					

(7) 料金回収率

指標の解説	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかという、料金水準を評価する指標。この指標が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味する。					
算出式	供給単価 ÷ 給水原価 × 100					
R7年度値	予測値	101.20%	予算値	99.79%	増減	-1.41%
評価・分析	これまで100%を上回る状況であったが、令和7年度は更に給水収益が減少し、経常費用が増加するため、予算値は100%を若干下回り、経営状況が厳しくなることが予想される。より一層の経費削減が必要である。					

(8) 流動比率

指標の解説	短期的な債務に対する支払い能力を表す指標で、1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す100%以上であることが必要。					
算出式	流動資産 ÷ 流動負債 × 100					
R7年度値	予測値	352.97%	予算値	337.30%	増減	-15.67%
評価・分析	指標値は、同規模平均と比較して高い値となっており、短期的な支払能力を示す100%以上を確保しているが、予算値は予測値を下回った。					

(9) 自己資本構成比率

指標の解説	資金の調達源泉である総資本（負債・資本合計）に対する、自己資本（資本金+剰余金）の割合で、財務の長期的な安全性を示す指標。					
算出式	（資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益） ÷ 負債・資本合計 × 100					
R7年度値	予測値	85.57%	予算値	85.60%	増減	0.03%
評価・分析	指標値は、同規模平均と比較して高い値となっており、横ばい傾向にある。予算値は予測値と同程度となった。					